

■陸前高田市気仙町 長部小学校付近：ヒアリング記録：110507 12:05 ～（30分程度）■

首都大学東京 讃岐

応対してくださった方：長部コミュニティセンター副館長（？）の菅野様

[順不同]

- ・長部小学校脇の道路上（岩手県陸前高田市気仙町牧田19-10、北緯38.989486度、東経141.617911度）にて。
- ・車で通りかかったコミセン副館長（？）の菅野様にお話を伺った。
- ・当日、小学校の校長・教頭は出勤しておらず。
- ・長部町小学校は、音楽室、教室3つ、和室等が避難所として使用されているとのこと。
- ・陸前高田全体で1,000人超の死者、600人前後の不明者。
- ・役所では80名が死亡。
- ・陸前高田第一中学校では、仮設住宅36戸。
- ・気仙小学校では3階まで津波が上がった。長部小学校と似たような建物。
- ・気仙川沿いにあり津波被害の大きかった気仙小学校の生徒や約40名（全校生徒は約80名）が、長部小学校で勉強している。残りの40名は、親御さんとの関係で他地域の学校へ行っているとのこと。
- ・長部小の生徒は80名超が来ている（全校生徒は約90名）。
- ・災害救助法により、物資は来ている。米、ガスはずっと来ている。あとは衣類関係からパン、飲み物、医薬品など。
- ・がれき撤去、電気・水道の復旧が必要。水は給水車による給水や沢水・山水等をタンクに入れて利用している。ポンプアップされている方もいる。
- ・がれき撤去、電気と水の復旧がないことには、もとの生活に戻れない。
- ・うなりを上げて、十数mの津波が来た。
- ・菅野様は地震発生時に自宅におられた。お孫さんの保育所のお迎えで帰宅直後だった。
- ・地震直後、92歳のお母様をベッドごと庭に出し、布団をかぶせた。
- ・菅野様は民生委員で、お世話していた88歳くらいの海岸沿いにお住いのおばあさんを車で助けに行き、着の身着のまま（素足、薄着状態だったとのこと）避難させた。
- ・山間でも、14名のご年配の方が亡くなられた。→津波被害が想像を超える高所まで押し寄せた。
- ・1週間前（3日前？）の地震で、潮位が60cm程度上下していた。
- ・菅野さんは、20代より消防団員であった。津波の認識として、1m程度が一般的で、2mは稀、来ても2～3mだろうという認識。
- ・地震発生後、「6mの津波が来る」との情報があつた。その情報を聞いて、海岸のおばあさんを迎えに行った。
- ・防災マップを作成したが、役に立たず。津波の認識もあつたが、それをはるかに超える

被害であった。

- 110 戸、7 部落を民生委員が網羅している。
- 屋根に乗って流された人を、地震後沖に出て避難していた漁船が帰港時に助けた、という話がある。
- 夜、暗闇の中で流されていく人がいた。「助けてくれ～、助けてくれ～」と泣き叫ぶような声を、何人も聞いているとのこと。
- (あまりの被害に)「泣くのもなかなか難しい」という状態。
- ご親戚で、両親を亡くした 18 歳と 13 歳のお子様がいる。
- 地震後 1 週間は、部落の区長さん等が罵声を浴びせる場面も。物資の取り合いになりそのような場面もあった。それを菅野さん等が抑えた。
- 8 日間は陸の孤島と化した。その後ようやく無線電話が開通した。
- ガンやインフルエンザの患者のヘリコプター搬送を優先した。
- 1 週間～10 日間はガソリンなしの状態。
- 携帯もない、黒電話もない。
- 小学校がある高台の南に位置するさんま倉庫は流された。ボランティアに 200 人くらい来た。魚の腐臭がただよう。
- 自治防災によって、コミセンを中心とした防災コミュニティが成立しており、モラル維持やコミュニティ形成の重要な役割を担った。皆が従った。
- 訓練を行っていた。「ただし、今考えると、幼稚な訓練だった言わざるを得ない」
- コミュニティ推進協議会の会長が、長部地区の本部長で、副会長が・・・、その下に各部落の区長が支部長を務めていた。こうした自治防災組織があり、コミュニティ形成の重要な役割を担った。
- 「山間だから津波は来ない、我々は何をやるべきか」という問いにはじまり、「山崩れや土砂災害に対して、安全なところに逃げるという訓練をやったらよいのではないか」という課題を与えて行っていた。ところが、今回の津波被害を受けて、発想転換が必要だと考えている。
- 菅野さんの部落で 14 戸、隣の部落で 20 戸程度が津波に流された。
- 地震後に一時避難し、揺れが一旦止んで特に物を取りに帰った人が、津波に流された。自治防災でも、「戻るな」と言っていたが、大事なもののなか取りに戻った方が流された。隣の地区でも 4 人ほどが亡くなっている。犬の鎖をはずさない则可哀そう、ということで戻った方も流された。
- 高田松原の近辺では、110km/h の速度で津波が迫ったという。
- 7 万本の松が一瞬にして流された。